

Special Interview

「視点」**槍田松瑩** 国際大学理事長
7

守りに入らず攻め続けるために
スバルへの社名変更を決断した **吉永泰之**
富士重工業社長
10

紙メディアの未来

総論 **紙メディアに求められる役割**

インタビュー **ウェブ配信を強化し雑誌ビジネスを拡大**

青木康晋 朝日新聞出版社長
18

フリーペーパー

重要なのはコンテンツ アウトプットの
一つとして紙メディアがある

一木広治 ヘッドライン社長
22

パートワーク

テーマを掘り下げ、読者にささる
ヒットタイトルをつくる

村野一 デアゴスティーニ・ジャパン社長
24

広告業界

雑誌に求められるマネタイズと
多角的な展開

嶋浩一郎 博報堂ケトル社長 共同CEO
26

**消えたB2B
メディア**

コントロールドサーキュレーションの功罪

29

パブリシティ

メディアミックスの中で
媒体の特性を生かすべき **鈴木孝徳**
井之上パブリックリレーションズ社長兼COO
30

大型書店

紙文化の復権の担い手に
新規出店を積極展開

高井昌史 紀伊國屋書店会長兼社長
32

シリーズ温故知新

第71回「空の産声」飛行場にテニスコートをつくってパイロットと
テニスをしたり、魚釣りをしたりしていました

松尾静磨 × **黒川紀章**
日本航空社長(当時) 建築家
34

News Report

三越伊勢丹、ヤマト運輸……人手不足が労組を動かす
攻めの農業の象徴 農水産物輸出1兆円は大丈夫か
豪腕・森信親・金融庁長官の続投濃厚で戦々恐々の金融界

独自のAI技術を活用し企業の成長をサポート
鈴木章裕 コミクスグループ代表
46

「仮想通貨とブロックチェーンで社会構造の革新をしたい」
加納裕三 bitFlyer社長
48

動画による「見える化」でサービス業のマネジメントを革新する
高橋勇人 ジェネックスソリューションズ社長
50

最先端分野でニッチなニーズに100%合致したものでづくりで躍進
岡林理 レーザーテック社長
52

洗練された工学知により次世代の社会設計をリードする
服部正太 構造計画研究所社長
54

稀代のスパイはインテリジェンスセンスを磨く最高のテキスト
手嶋龍一 作家、ジャーナリスト
56

ゲスト **池内ひろ美** 後編
148

家庭問題コンサルタント
関西「変革と活況」
69

森詳介 蔭山秀一 尾崎裕
関西経済連合会会長 関西経済同友会代表幹事 大阪商工会議所会頭

特集②関西特集

著者インタビュー

燎々トーク

連載

WORLD INSIGHT

PHOTO REPORT

特集③九州特集

九州経済復活への活力
観光客誘致と地域活性化
103

小川洋 福岡県知事 蒲島郁夫 熊本県知事

青柳俊彦 JR九州社長 澤田秀雄 ハウスケンボス社長

佐々木耕一 別府温泉 杉乃井ホテル専務(総支配人)
増田有華の体験取材!

東急スポーツオアシス編
リゾート気分も味わえる名門コース
95

烏山城カントリークラブ
100

スポーツインサイドアウト 二宮清純
132

Dr.加藤俊徳の脳番地塾
134

住友不動産 DR・C医業
99 98 38

アパホテル 月刊化のお知らせ
39

「大学シリーズ名門の系譜」
明治大学
58

経済界倶楽部 東京・横浜2月例会
119

HEADLINE イノベーターズ
「新時代を創る経営者たち」
138

企業EYE 貴世絵先生の「医食同源」
大人のエンタメ
140

FROM EDITOR 年収1億円の流儀
江上治
130

実録!関西の勇士たち 眞島弘
128

カオス(混沌)の国 インド市場を知る 帝羽ニルマラ純子
126





本誌は次号でリニューアルを実施する。
しかし紙の出版物の売り上げが
年率3%で右肩下がり続けている中、
紙メディアが置かれている状況は厳しい。
その一方で、昨年起こったキュレーションメディアの
問題で、紙メディアを再評価する向きもある。
次号で新たなスタートを切る前に、
ここで紙メディアが置かれている状況を整理し、
今後を展望する。(本誌／村田晋一郎)

特集

紙メディアの 未来

紙メディアに求められる役割

キュレーションサイトの問題が明らかになったこと

昨年12月、DeNAは子会社が運営する医療情報サイト「WELQ」で不正確な情報発信や著作権侵害が認められたとして、同サイトを含む9つのキュレーションサイトを非公開にした。事態の深刻さを象徴するように、DeNAが開いた釈明会見は3時間もの長時間に及んだ。この事件は日本において、ウェブメディアが抱える問題をあらわにすると同時に、新聞や雑誌など紙メディアの在り方を再認識する一件でもあった。

キュレーションサイトの問題は、メディアアリテラシーの高いコミュニケーションなら、ここまで騒がれなかった可能性がある。新聞で言うと、いわゆる「高級紙」が少なく、「イエローペーパー」

が幅を利かせている国では、受け手の読者が情報の出し方の良し悪しを判断し、新聞の情報をもそのまま鵜呑みにすることは少ない。メディアが発信する「真実」とは、あくまでその記事を書いた記者にとつての「真実」ではない。真偽はともかく、大統領自身が大手メディアを「フェイクニュース」と公言する国もある。メディアが発する情報が常に正しいとは限らないと思っている読者が大半なら、不正確な情報発信が行われたところで、大騒ぎにはならなかったかもしれない。

一方、日本は新聞では高級紙の存在感が強く、メディアが発信する情報をおおむね正しいととらえる傾向が強い。メディアが信頼されているということだが、それだけに今回のキュレーションサイトの問題は、メディア

への信頼を大きく裏切ることになってしまった。

今のところ、この信頼喪失の矛先は問題となったキュレーションサイトに向けられている。そしてその反動で紙メディアについては、「一次取材をしっかりと行い、問題を深掘りし、情報が信頼できるメディア」との位置付けが再認識されるようになっていく。

今回問題となったのはウェブメディアでも一次取材を疎かにしているメディアであって、ウェブメディアが全く一次取材をしていないということはない。また、紙メディアの報道の質が格段に上がっているということもないだろう。しかし外部要因とはいえ、結果的に信頼感が増していることは、紙メディアにとって「追い風」と言える。紙メディアの今後は、この追い風を

守りに入らず攻め続けるために
スバルへの社名変更を決断した

富士重工業は4月1日、社名をSUBARU(スバル)に変更する。富士重工業の前身である中島飛行機が誕生して今年でちょうど100年(当時の社名は飛行機研究所)という節目の年の大きな決断だ。その狙いを吉永泰之社長に聞いた。

Special Interview
富士重工業社長 吉永泰之